

間伐材利用、林業にも貢献

県産材の木杭で住宅地盤改良

ABコーポレーション

福井県産材の木杭を
活用した「住宅地盤改
良技術講習会」が18日
開催され、行政の農林・

- 【地盤改良に木材利用のメリット】
- ◎戸建て住宅1棟当たりのCO₂排出量が15トンを削減される。
 - ◎地球環境防止につながる。
 - ◎地盤補強工法の第三者証明も取得（木材を利用した地盤補強材としての性能証明は業界初）。
 - ◎セメント系固化材を使った地盤補強工法にみる六価クロムの溶出など土壤汚染問題がない。
 - ◎間伐材の有効活用につながる。
 - ◎国内の林業界の活性化にもつながる。
- ＝兼松日産農林の提案

土木担当者や工務店、建設会社、設計事務所、設計士、森林組合関係者ら約90人が参加して、必然的に発生する間伐材を有効に活用すること、林業の活性化をも可能にする一石数鳥の大きな効果に目を見張った。坂井市丸岡町熊堂の福井県産材情報センター・マルチホールで写真。

講習の第1部は、県農林水産部県産材活用課・県産材住宅推進グループリーダーの灰谷嘉康氏が務め、県産材利用の意義について、ふくいの元気な森・元気な林業戦略や県産材を活用したふくいの住まい支援事業などにか

90人聴講

一石数鳥の効果に目見張る

らめ、今地盤改良事業の普及拡大に大きな期待を示した。第2部では、環境パ



イル工法を技術提供する兼松日産農林シオテック事業部の水谷羊介氏（工学博士）が、木材の地中利用需要拡大に向けて、実大の試験結果も併せ分かりやすく紹介した。木杭の支持力特性のまとめとして同形状の小口径鋼管杭と比較した場合、木杭は鋼管杭と同等の支持力が確認できたなどと科学的に立証した。

第3部は、福井県内における環境パイル工法の施工事例について、基礎工事および建築・土木・不動産企画のABコーポレーション（福井市四十谷町5-16、電話0776-65-1113）、油屋敏行代表取締役が説明した。県木材利用研究会や美山町森林組合、県産材活用課および兼松日産農林の指導協力のもとに施工実績を積み重ね、今後も見学会や講習会を随時、積極的に開催していく計画とした。

第4部は、福井工業高等専門学校環境都市工学科の吉田雅穂教授（工学博士）が、古くから新しい丸太を用いた地盤補強技術を紹介。長年の研究成果を様々な披露し、丸太を用いた軟弱地盤対策による環境貢献の高さなどにも触れ、今後も福井県木材利用研究会を通して積極的に研究活動を続けていくとした。

なお企画は、福井県農林水産部県産材活用課が協力した。